

第2学年道徳指導案

日時 平成16年 9月 9日(2校時)

児童 2年(男子8名 女子13名)計21名

指導者 古 里 洋 子

1 主題名 かぞくのために(家族愛4 - (2))

2 資料名 サバンナの子ども

3 主題設定の理由

(1) 価値について

学習指導要領第3節、道徳の第1学年及び、第2学年の内容4「主として集団や社会とのかかわりに関すること」の(2)に「父母、祖父母を敬愛し、進んで家の手伝いなどをして、家族の役に立つ喜びを知る。」とある。家族集団とのかかわりに関するものであり、家族や家庭を愛する心をもった児童を育てようとする内容項目である。主に、「第3学年及び第4学年」では4の(3)に発展し、「第5学年及び第6学年」では、4の(5)に発展している。

児童の道徳の基盤は家庭にあるといつてよい。その家庭において身につける道徳性が、様々な集団とかかわりの基盤を築くといえよう。家族一人一人について理解を深めれば、父母や祖父母を敬愛する心が一層強くなる。また、自分の立場や役割を知ることから、積極的に家族の役に立とうとする精神が芽生えたとともに、家族の一員として役に立つ喜びが実感できるようになる。このような家族や家庭を愛する心の指導が大切である。

この段階においては、特に日ごろの父母や祖父母の様子を知ることから敬愛の念を育て、家の手伝いを行って積極的に家族と交わり、家族に一員として役に立つ喜びが実感できるように指導していくことが大切である。なお、父母や祖父母と同居していない児童に対しては十分な配慮が必要である。

(2) 児童の実態

ほとんどの児童は、祖父母、両親と同居しており、核家族は少ない。家庭でのお手伝いの実態について、毎日決まったお手伝いがある児童は、8名。時々手伝う児童は、6名。頼まれればお手伝いをする児童は、7名であった。全く手伝いをしない児童はいなかった。その手伝いの主な内容は、食器あらいおふろあらい、弟妹の世話、洗濯物をたたむことであった。酪農家が多い地域なので、子牛の世話をしている児童も数名いた。また、お手伝いをして、おうちに人に感謝の言葉やほめてもらった経験がある児童は、半数いた。しかし、お金をくれるからお手伝いをするという意識調査の結果が出ている。全体的に家でのお手伝いはよくなされてお、自分にできるお手伝いをもっとしたいと考えている児童が多い。この時期、まだお手伝いはなんでもやってみようという好奇心からくるものと考えられる。お手伝いが家族のためになっていることに気づいている児童は少ない。家族が喜んでくれるのはうれしいが、どうして喜んでくれるのか分からないというのが今の実態である。

(3) 資料について

日本とは全く異なる気候、地形、電気も水道もない生活は、2年生の児童にとっては想像できない暮らしだと思われる。アフリカのサバンナ地方で暮らす人々の生活風景のVTR、あるいはそれに関する写真や本などを有効に活用し、実感的な理解が得られるように工夫する。

ラジャブの仕事は、毎朝牛を草原に連れて行くこと。お姉さんの仕事は、共同井戸まで水を汲みにいくことである。共同井戸の水を村人はとても大切に使われていること、その水を今度はラジャブが学校から帰って来てから汲みに行き、夕食後ラジャブが汲んできた水を沸かして、家族全員でチャイを飲みながら1日のことを語り合う、という内容である。ラジャブは大変な仕事を1度も嫌がったことはなく、毎日続けられるのはどうしてかなど、家族愛の大切さに気づかせたい。

外国の話であり、しかも生活環境が全く異なり、理解するのに難しい面もあるが、現実の話として受け止めてさせたい。

(4) 指導にあたって

導入では、毎日児童が家族のためにどんな手伝いをしているかを話し合う。そして、お手伝いをしたとき、

家族からどんな声をかけてもらい、どんな気持ちのなったかを発表させたい。次に、サバンナ地方がどんなところか、資料に写真をサバンナのくらしや生活について自分たちの生活と比べながら具体的に想像させたい。展開では資料に出てくる「ラジャブ」は毎日どんな手伝いをしているか、その手伝いが大変な仕事であるにもかかわらず「ラジャ」は、なぜ全く苦にならないのかを考えさせたい。そして、「ラジャブ」の水汲みの仕事が家族みんなのためになっていること、家族に大変感謝されていることが「ラジャブ」の気持ちを支えていることに気づかせたい。特に、「ラジャ」が入れた紅茶を家族がそろって飲む場面では、どんな会話をしているのかを考えさせて、家族の役に立つ喜びを実感できるようにしたい。終末では、保護者からの手紙を紹介し、家族の大切やお手伝いをしようとする意欲を持たせたい。話し合いでは、ラジャブの仕事が家族を支え、家族の喜びにもなっていることを児童の体験を通して考えさせたい。

4 本時の指導

(1) ねらい

父母を大切にし、進んで家の手伝いなどをして、家族の役に立つ喜びを自覚させる。

(2) 評価

父母を大切にし、進んで家の手伝いなどをして、家族の役に立つ喜びを自覚しようとしている。

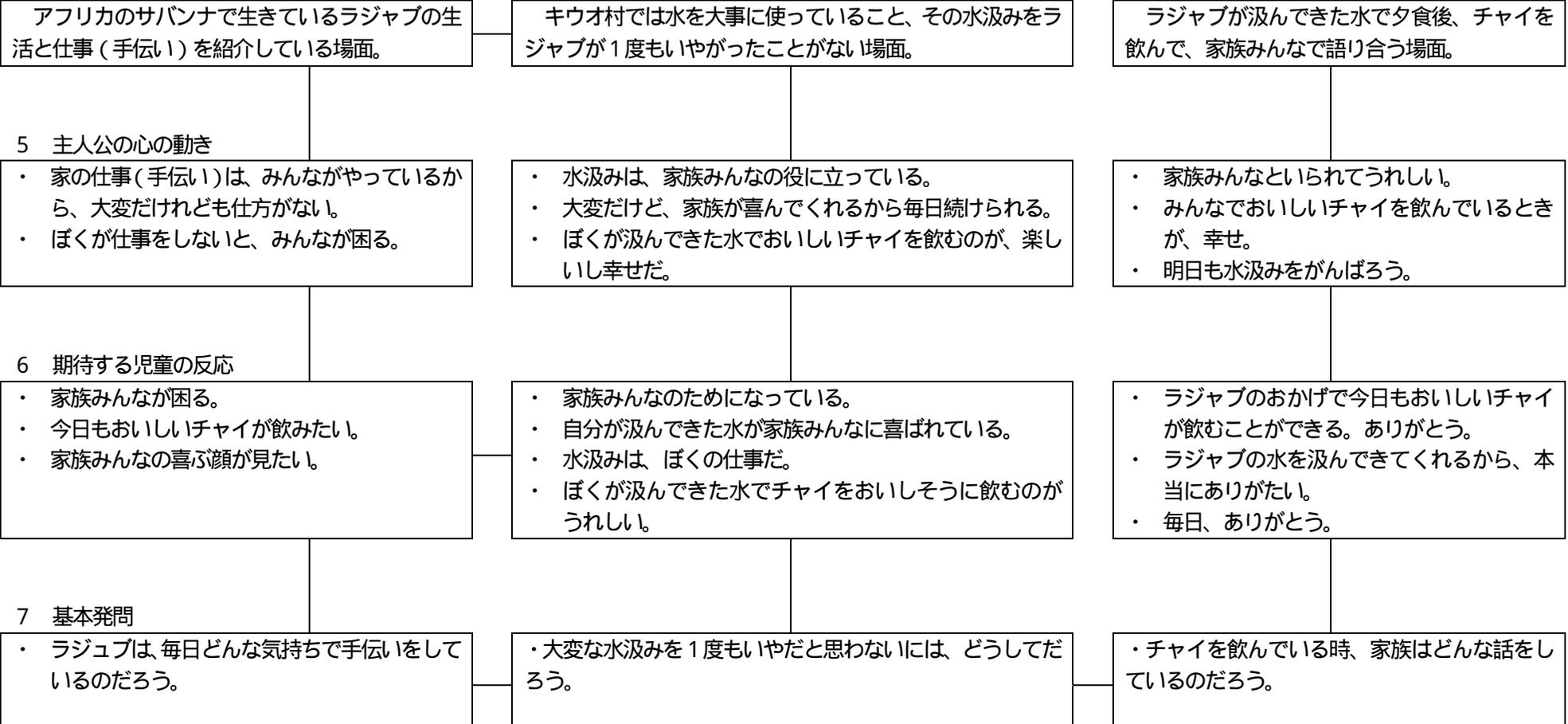
(3) 展開

	学習活動と主な発問	・支援（指導上の留意点） 評価 人権教育の観点から強調したり、留意したりする点
導入 5分	1 家でどんなお手伝いをしているか、事前のアンケートから想起する。 みなさんは、どんなお手伝いをしていますか。	・日常のお手伝いについて思い出させたい。
展開 30分	2 資料「サバンナの子ども」を読んで、家族やお手伝いについて話し合う。 感想を発表しましょう。 ラジャブは、毎日水汲みに行くのはどうしてですか。 大変な水汲みを1度もいやがらないのは、どうしてだと思いますか。	<ul style="list-style-type: none"> ・外国の暮らしなので、アフリカやサバンナ地方の様子や位置など資料を掲示する。 ・資料に「ひしゃく2杯」とあるが、実物を提示し、ひしゃく2杯がどれだけの量が視覚的にとらえさせる。 ・児童の感想から、ねらいとする価値へ方向付ける。 ・水汲みがどんなに重労働なのか、その大変さをしっかり考えさせたい。 ・「ラジャブがかわいそう」という感想が出された時は、本当のかわいそうなのか子どもたちに話し合わせたい。 ・大変な水汲みを毎日続けられるのは、家族の一員として役に立っていることへの喜び、家族そろって語り合うときの安堵感や幸福があるからであることを押える。 ・水がないと家族が困ることや他の家族には違う仕事があること、家族みんなで助け合って生活していることを児童から引き出したい。

	<p>家族がそろってチャイを飲んでいるとき、ラジャブは家族からどんな声をかけてもらっていると思うか、想像して書いてみよう。</p> <p>家族の役にたっていると思うときはどんなときですか。また、そのとき、どんな気持ちでしたか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・家族からラジャブへの感謝や労をねぎらう言葉をかけてもらっていることを考えさせたい。 ・家族の大切に気づかせたい。家族の喜びや大切さに気づき発表した児童を認め、賞賛する。 ・お手伝いをするので家族みんなが喜んでくれることに気づかせたい。それによって自分もうれしくなることをおさえる。課題について自分の考えを持つことができたか。自分の考えと友だちの考えをくらべながら発言している児童を認め賞賛する。
<p>終 末 1 0 分</p>	<p>3 親の手紙を紹介する。</p> <p>4 家族ついて自分の考えを発表する。 これから家族のためにどんなことをしたいですか。</p> <p>5 今日の学習を振り返る。 今日の学習で友だちの考えでいいなと思ったことはどんなことですか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の方からの手紙を紹介し、お手伝いをしようとする意欲を持たせる。 ・お手伝いを通して家族愛について考えさせたい。 ・友だちのよさやがんばりを認め合う場を設定しお互いのよさを学び合わせる。 <p>友達の良さを認めることができた児童を賞賛する。 すすんで手伝をして、家族の役に立つ喜びを自覚しようとしているか。</p>

資料分析

- 1 主題名 かぞくのために
- 2 資料名 サバンナの子ども
- 3 ねらい 父母を大切に、進んで家の手伝いなどをして、家族の役に立つ喜びを自覚させる。
- 4 場面



座 席 表

<p>D</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎日お手伝いをする。 ・米とぎ、お風呂洗い、食器の用意 ・お手伝いをするとお金を10円もらえる。お手伝いは、金銭を伴わないものであることに気づかせたい。 	<p>G</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1週間に2, 3回 ・食器洗い、片付け、花の水かけ ・お手伝いを通して家族の大切さや思いに気づかせたい。
<p>C</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎日、お手伝いをする。 ・子牛にミルクをやる。肩もみ ・お母さんの疲れた顔を見てお手伝いをしようと思った。家族が互いに助け合って生活していることに気づかせたい。 	<p>F</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1週間に2, 3回 ・子牛にミルクをあげる ・子牛のお世話をがんばっているの、家族がとても助かっていることに気づかせたい。
<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1週間に2, 3回 ・お風呂洗い、皿ふき ・「ありがとう」と言ってもらえるのがうれしい。自分から進んでお手伝いをしようとする意欲を持たせる。 	<p>E</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1週間に2, 3回 ・食器洗い、掃除 ・学級でも熱心に仕事をする。お手伝いを通して家族の大切さに気づかせたい。
<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1週間に2, 3回 ・弟の子守 ・お手伝いをして家族にほめてもらえるのがうれしいと感じている。継続的なお手伝いができるように意欲を持たせる 	<p>E</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1週間に2, 3回 ・食器洗い、掃除 ・学級でも熱心に仕事をする。お手伝いを通して家族の大切さに気づかせたい。

<p>K</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎日お手伝いをする。 ・茶碗洗い、風呂洗い、米とぎ ・お手伝いをする、家族みんなが喜んでくれる。学級で1番お手伝いをしているので、その頑張りを認め、賞賛する。 	<p>N</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎日お手伝いをする ・洗濯物をたたむ、お茶碗を用意する。 ・自分ができるとお手伝いをもっとやりたいと考えている。お手伝いの範囲が広がっているの、自分が家族の役にたっていることに気づかせたい。
<p>J</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おうちの人に「手伝って」と言われればやる。 ・皿洗い ・お手伝いすると家族が喜んでくれる。そのわけを考えさせたい。 	<p>M</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1週間に2, 3回 ・お風呂洗い、洗濯物をたたむ。 ・お手伝いすると家族がとても喜んでくれることに気づかせたい。
<p>I</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「手伝って」といわれればやる。 ・ほうれん草の水やり ・お手伝いが終わるとまたやりたくなる。なぜ、そんな気持ちになるのか気づかせたい。 	<p>L</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎日、お手伝いをする。 ・ダンボールの箱づくり ・お手伝いするとお金をもらえる。家族の大切さに気づかせたい。

<p>R</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「手伝って」といわれればやる。 ・お店の手伝い ・お母さんから「ありがとう」といわれるのがうれしいと感じている。家族のために役に立っていることに気づかせ、お手伝いを継続的にできるように支援する。 	<p>U</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎日お世話をする。 ・妹のお世話 ・家ではいろいろお手伝いをしてもらえるのがうれしい。お手伝いに關心や意欲が高まってきているので、継続的にお手伝いができるように支援する。
<p>Q</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「手伝って」といわれれば、やる。 ・玄関の掃除、皿洗い ・お母さんから「ありがとう」と言ってもらえるのがうれしい。お手伝いに關心や意欲が高まってきているので、継続的にお手伝いができるように支援する。 	<p>T</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1週間に2, 3回 ・食器洗い ・お手伝いをするといっぱいお母さんがほめてくれる。ほめてもらった時のうれしい気持ちを思い出させ、継続的にできるように支援する。
<p>P</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎日お手伝いをする。 ・弟妹のお世話、皿洗い ・お母さんがお手伝いするとほめてくれる。いろいろなお手伝いができるようになったので、さらに意欲を持たせる。 	<p>S</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎日、お手伝いをする。 ・米とぎ、テーブルふき ・お手伝いをするのは楽しい。更なる意欲を持たせたい。
<p>O</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1週間に2, 3回お手伝いをする。 ・弟のせわ、お風呂にお湯を入れる。 ・お風呂にお湯を入れると、おうちの人喜んでくれる。自分も家族の一員であることに気づかせ、意欲を持たせる。 	<p>S</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎日、お手伝いをする。 ・米とぎ、テーブルふき ・お手伝いをするのは楽しい。更なる意欲を持たせたい。

板書計画

サバンナの子ども

家族とお手伝いについて

サバンナの
写真

さばく
水が少ない・ひしゃく二は
体をあらい

ラジャブ

ーども いやだと おもわない

- ・ 水くみは、たいへん。
- ・ かぞくのため
- ・ かぞくがよろこんでくれる

かぞく

家族でチャ
イを飲む写
真

たすかる
「ラジャブ、いつもありがとう」

みんな なかかよく

お手伝い

- ・ かぞくみんなが よろこんでくれる

しあわせ